

# 香川・愛媛でIoT農業

NTTドコモは香川県や愛媛県で取り組まれている、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」の農業分野への導入事業に参画する。田畑に設置した通信機能付きのセンサー端末で気象や土壌のデー

## NTTドコモ

タを集め、スマートフォン(スマホ)などで生産者が常時閲覧できるようにする。栽培効率化や品質向上に生かし、人口減が進む四国で農業の先進モデルづくりを後押しする。

ドコモは農業関連のIoT(情報技術)ベンチャー「フィールドサーバ」を、ベジタリア(東京・渋谷)と共に普及を目指す。香川県や愛媛県のプロデューサーらによる事業に提供す

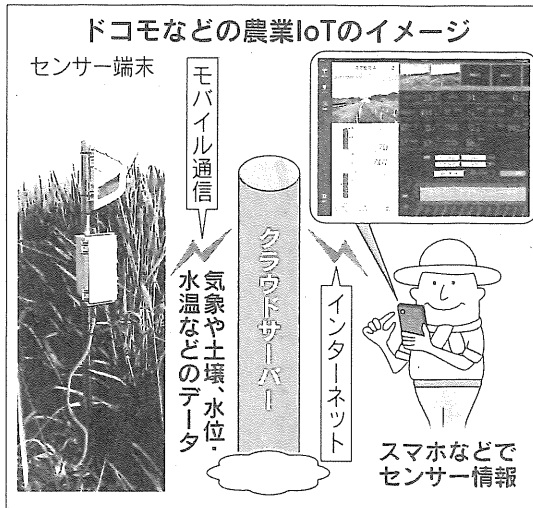
## 田畑のデータ 常時閲覧

### 葉ねぎや酒米、栽培効率化

同端末は気温や湿度、照度などを測る気象計のほか、土壌内の温度や含水率、葉のぬれ具合などを把握できる各種センサーを接続でき、カメラも搭載可能だ。

香川県では9月下旬以降、県農業試験場(綾川

町)や県内各地の葉ねぎ(青ねぎ)生産者の圃場計12カ所に小型化した同端末の最新機種を設置する。同試験場が主導し県内の大手生産者でつくる「葉ねぎ省力安定生産コンソーシアム」の事業に協力する。国立研究開発



## 四万十映画祭の受賞作品

# 海外輸出を支援

ジェトロ

か、配給交渉や実務的な相談に乗る。四万十からクールジャパンを発信する手伝いをしたい」と説明する。

実行委員会の米津太

ロデューサーは「映画祭で地域に人を呼び込むだけでなく、新たな四万十

分野の専門家による海外

を決める。

法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)が助成する。各地の気象・土壌のデータやカメラ画像を同端末で得て、内蔵した通信機能によりクラウドサーバー上に蓄え、生産者がスマホやタブレットで確認できるようにする。蓄積した情報をビッグデータとして解析し、葉が変色して枯れてしまつ、

べと病の発生予測や予防に生かすほか、出荷時期の判断にも活用して作業効率化につなげる。葉ねぎは讀崎うどんの薬味に欠かせず、お好み焼きなどの食材として京阪神でも需要が高い。県は業務用の流通業者向けに契約栽培での供給強化を目指しており、3カ年計画で成果を得て、県内生産者にノウハウを広げたいと考えた。

一方、愛媛県でも初めに独自開発した酒造好適米(酒米)「しずく媛」の品質向上を目指し同端末を利用した栽培技術の実証事業が6月に始まった。県やJA全農えひめなどの「愛媛県酒米推進コンソーシアム」が、今年産の栽培に合わせ県内3カ所に6台を導入。大粒に育つ水位の管理など

を3年かけて検証し、生産拡大につなげる。センサー端末は当初は大型で高価だったが、現行機種は小型化し1台5万円程度。省電力で広域通信ができる規格「LPWA」に対応した次世代機種はさらに割安となる見通し。農業でのIoTを推進する原動力としてドコモなどは利用拡大を目指している。

## 高知・越知町など表彰

### ふるさと納税 自治体連合

個人が故郷や好きな自治体に寄付できる「ふるさと納税」制度の発展を目指す自治体連合は、同じ道を活用した優良事例として石川県輪島市、長野県白馬村、高知県越知町を表彰する。同連合は

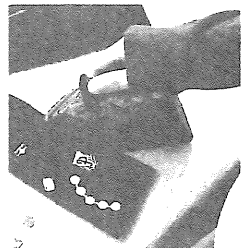
2017年度に自治体向けにの頭影を創設、今回が初めての表彰となる。使道を明示して寄付を募り、地域課題の解決につなげた点を評価した。寄付金の使い道は、活性化や人口減対策など

輪島塗職人による熊本地震で被災した陶器の再生、越知町は地域おこし協力隊が始めたゲストハウスを支援する。同連合の事務局を務める福井県は「伝統産業の活性化や寄付者の拡大を後押しするのが狙い。

の事例は他の自治体の参考になる」とみる。27日に東京都内のフォーラムで表彰する。同頭影には全国から45の事例の応募があった。同連合は今年5月、福井県の呼びかけで当初27自治体で発足し、現在は73自治体が増えた。情報交換を通じて同制度の発展を支援し、地域活性化や寄付者の拡大を後押しするのが狙い。

## 刺しゅう 自分好みに

### ガン、女性向け新ブランド



トヤピンクなど6色をそろえた。アクセントとして小指部分の色を変えることもできる。3人の作家がそれぞれ動物をモチーフにした刺しゅうや、宝石を模した刺しゅうなどをピッケ向けに作成。家庭でアイロンを使って好きな位置に貼り付けることができる。

## アイロン使い貼り付け

価格は作家の作品によって異なり7千円(税別)タイプ2種類と、8千円(同)タイプ1種類を用意した。首都圏や関西の